

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O470500315		
法人名	社会福祉法人キングスガーデン宮城		
事業所名	星谷ブランチ	ユニット名	
所在地	宮城県気仙沼市松崎面瀬17-1		
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 19 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓の外には山や森が見え、向かいには川が流れる自然豊かな場所に立地しており、空気がとてもきれいです。建物も鉄筋コンクリート造りであらゆる災害にも強さがあり、同じ地区にあるグループホームの避難場所にもなっています。隣の棟は障害者の通所施設とグループホームがあり、その利用者及び入居者と交流棟のホールや中庭を使つての行事も盛大に開催する事もできます。職員同士も協力的で何かあった時はすぐに助け合う体制も構築されています。高齢者、障害者のグループホームが隣接しているので福祉の仕事に興味がある方には魅力的だと思います。コロナ禍でこの一年、屋内で食品作りする機会が増えました。産直で販売されているような物で、将来的にグループホームで作られた物を販売したいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸道気仙沼中央ICより車で約10分、気仙沼面瀬地区の山間部にあり、近くを面瀬川が流れ初冬を迎えた木々は、落葉を終えようとしている地域にホームがある。コロナ禍で市内の各種行事が中止になり外出する機会が無くなった。ホーム周辺の散歩や中庭で焼き鳥、焼き肉、ピザ焼きなど春、夏、秋と入居者と一緒を楽しみ、近所の方々にお裾分けして喜ばれた。おせちを食べての正月や職員が鬼になっての節分、短冊に願いを書いての七夕、職員がサンタクロースになってプレゼントを配つてのクリスマス実施など、職員や入居者共に笑顔で楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 星谷ランチ)「ユニット名 」

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度初めに職員が話し合っ決めて理念を今年度も継続している。その理念を意識して日々のケアにあたるようにしている。	ホーム理念を事務所など常に見える位置に掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。家事の手伝いや縫物、料理作り、ハーモニカ演奏など好きな事に取り組み、入居者同士笑顔で楽しく過ごしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会している。コロナの影響で地区行事は軒並み中止となって交流機会は激減したが、施設内で行事を実施した際に作った料理を近所におすそ分けしたりした。	近所の方から回覧で、市報や地域便りなどの配布がある。近所の方や面瀬地区ボランティアの方が運営推進会議に出席している。近所の方にホームで作った菓子やしそ巻などを配り、心癒されると喜ばれた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	集合形式で開催した運営推進会議のなかで、ケアへの取り組みを報告した。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	項目3と同じくケアの実践報告や事故についての報告を行い、外部からの評価やアドバイスをいただいたりした。	年6回、市職員や家族、地区ボランティア、近所の方をメンバーに書面にて開催している。面会が出来なく健康面での心配から、運動不足解消に体操など取り入れていることは良いなど意見を貰った。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密に取る、ケアの取り組み報告の積極性というものは少なかった。地域包括支援センターからの入所相談は何件もあった。	地域包括職員より独居の方の入居相談があり対応した。市の保健師と市立病院の看護師が来訪し、ホームのゾーニングの実施指導をしてくれた。市より、感染対応のマスクや手袋の配布があった。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束適正化委員会を実施した。あからさまな拘束はなかったが、利用者の自由を束縛するようなケアは確認されており、そのことについて全員で話し合い、できる限りの改善努力を行った。	委員会で事例に基づいて話し合っている。事故防止のためであっても「立たないで危ないから」など大声で抑制することが入居者に悪い影響を及ぼすことの気付きを促すことを話し合っている。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待に関する委員会を行っている。施設内で虐待に該当するようなケアは確認されていないが、一つ間違ふと虐待ともとれるケアがあったりしたのではないかなど、話し合った。	委員会で、心理的や性的、経済的などの虐待について研修している。業務に追われ後回しになることが、介護放棄と取られ虐待とも取れるケアではないかなど話し合い、虐待防止に努めている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	やや難しい制度である事と、そのような立場にある入居者がしばらくいない事などから勉強する機会が無かった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を基に一つ一つ説明し理解を得た。今年度の法改正に伴い、事前に家族様に電話で説明し、来所可能であった家族様からは直接同意をいただき、遠方の家族様からは郵送で同意書を得た。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席している家族にはその場で意向を聞いている。それ以外の家族様には来所時や電話での近況報告時に希望を聞くようにした。	「伸びた髪を切って」や「甘いものや果物が好きだから食べさせて」などに対応した。毎月、入居者の様子など写真入りで送付している。コロナ禍が収束しゆっくり面会したい等のコメントをもらった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催する職員ミーティングで、ケア以外に業務で改善したいところを全員が言えるようにしている。	管理者はいつでも職員の意見を聞いている。行事がない分、食事は皆さんの好物を出そうとの意見があり取り入れた。家庭の事情に応じた職員のシフトへの配慮も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な備品、電化製品などはすぐに購入してくれた。資格取得者に向け、研修等の情報を知らせてくれた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年数を積んだ職員が多く、経験を生かしたケアを展開できていたと思う。資格取得に向け、支障なく研修に参加できるよう、シフト調整も行った。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、毎年実施されていたGH研修会は2年続けて中止となっているが、同じ地区にあるGHの代表者、管理者と実情を話し合ったり、災害時の避難体制について再確認する機会を設けた。	同法人のサービス事業所グループ研修会で、感染症や誤嚥予防の食事時の姿勢について、話し合っている。敷地内にある同法人の障がい施設やヘルパーステーションの職員と日常的に交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に実態調査を行い、本人と話す機会を作り、少しでも安心できるように努めた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にグループホームとはどういう施設なのか概要を説明し理解を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の担当ケアマネジャーに詳しい情報をいただき、本人及び家族の意向を聞く機会を作り、できる限り、希望に沿ったケアプランを作るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には食事作り、洗濯、掃除を共に行ってもらうようにした。調理などの知識はむしろ利用者様の方が優れている場合もあり、その方も快く教えてくれている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアの改善を検討しなければならない時に、家族様に報告し、家族様にも方法を考えていただいた。室内での面会はなかったが、外で行った行事の時には一緒に参加してもらった。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容室へ通い続けている方がいる。コロナの為、そういう関係は遮断されてしまったが、知人から差し入れなどは以前より多くあった。	家族や親族が衣類や化粧品道具の持ち込みが多くなった。面会について、家族から心配の声が電話が多く、ワクチン接種済みなど条件付きで予約制とした。廊下のソファで仲良い同士お喋りをしたり楽しく過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を見極め、席位置など決めている。場所が変わっても仲の良い者同士が近くにいれるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も家族様と出会った場合は挨拶するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に本人や家族の意向を確認している。本人の意思が曖昧な時は本人の性格や嗜好を基に生活を支援している。	水産加工場に勤め、表彰を受けたことや学校の教師をして自転車通勤したこと等昔話を傾聴している。「満州たい焼きを食べたい」「テレビで好きな相撲を見たい」など思いを叶え支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に担当ケアマネジャーから細かい情報をもらうほか、利用していたサービス事業所の職員から本人の様子など聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子観察を行い、身体状況、精神状況の変化を記録し、検討する機会を設けている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所可能な家族とは直接話し合いを行っている。来所が難しい家族には電話で大まかではあるが、希望を聞いている。ケアへの取り組み評価は介護職員に行ってもらっている。	ミーティングで話し合いケアプランを作成している。トイレで骨折しADLが低下した方に、車いす対応とし、居室にセンサーマットを置きベッドの位置を変え、職員の見守りを入れた。3か月毎に評価し、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連日、個人の生活の様子を記録している(パソコン、記録簿)重要な事等は業務日誌や引継ぎノートに記録し、ケア方法を早めに見直すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時、家族が付き添いできない時は職員が通院介助するようにしている。入院時も普段見ている時間が長いという事で色々なお手伝いをした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市街から離れている事もあり、車両がないと買い物には行けない。敷地が広いので気分転換になる散歩はできている。コロナの為、地域との関わりは薄かった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の7割以上が施設の協力医療機関を主治医にしている。何かあった場合は訪問看護ステーションを通じて相談できる体制になっている。また、そうでない方も何かあった場合の連携体制は整っている。	殆どの方は、協力医の月1回訪問診療を受けている。2名の方は、希望するかかりつけ医を家族か職員付き添いで受診している。週1回訪問看護師が健康管理や相談に来訪し、安心した医療体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に状態を確認してもらっている。24時間対応可能なので、急変時もすぐに駆けつけられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今夏、入院した利用者がいたが、総合相談室と小まめに連絡を取り合い、早期退院できるように話し合いを設けた。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の意向は契約時に家族から聞き取っている。状態低下に伴い、都度家族と話し合う機会を作り、意向に沿った対応をしている。	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」を家族に説明し同意を得ている。終末期になった場合、最後まで迎えたか家族に確認しホームを希望した場合、「看取りに対しての同意書」に同意を得て看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡がスムーズに行えるようシミュレーションする機会を作っている。年1回嘔吐物処理の実践訓練を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の時は近所の方から協力してもらえるよう訓練に参加いただいている。逆に水害時はこの施設を避難場所として提供している。	夜間想定を含む避難訓練を実施している。署員より、ホームが2階にあり避難する時、階段を降りる時間がかかるので常にシミュレーションしておくなど講評があった。今年はいくつか避難訓練をしていなかった。	ホームが2階にあり、階段を降りるときなど時間がかかるので、昼夜を問わず、入居者が安全に避難できるように、避難訓練は年2回以上実施していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すごく丁寧な言葉づかいではないが、とにかく優しい口調で話しかけることを意識している。相手を敬い、気分を悪くさせるような言い方だけはしないよう、職員間で注意喚起している。	名前は「～さん」と呼んでいる。失敗したときは、周りの人に気づかれないように声掛けし、プライバシーにも配慮している。毎日好きな写経を書く方や居室でハーモニカ演奏している方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの場面でも本人の意思を尊重し、職員が押し付けるようなケアはしないように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	具体的にその日の過ごし方の希望をとっているわけではないが、場面場面で何らかの希望があった場合はそれに沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方は本人に任せてある。介助が必要な方は、服など選んでもらう場合がある。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは食べたい物を調査して作っている。できる方には調理の補助を行ってもらい、そうでない方は食器拭きをしてもらっている。コロナ禍であった為、室内で楽しめる食事やおやつ作りに力を入れた。	入居者の好みの食材などを取り入れ、職員が調理している。魚や海産物、餡子物を好む方が多い。誕生日には本人の希望を聞き、ちらし寿司を食べた。蒸し饅頭やたこ焼き、ホットケーキなどを一緒に作り食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の摂取量は職員全員が把握できている。水分量が足りない方には本人の嗜好に合った飲み物を提供するようにした。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨き等口腔ケアは行っている。必要に応じて歯科通院したり、できない方は訪問歯科診療を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の3分の2がオムツ、リハビリパンツを使用している。そのスタイルに大きな変化はなかったが、昼夜ともオムツだった方が日中だけトイレで排泄できるようになった。	日中は3名の方が自立している。他の方は、声掛けしたり落ち着きがなくなるなどのサインでトイレ誘導を行い、失禁頻度が少ないように支援している。夜間は、声掛けやナースコール、おむつなど個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の半分近くが便秘症である。いずれの方も運動機能が低下しているので、効果のある食物を提供したり、水分を促したりしている。腹部マッサージ等も行うが、それでも排便が無い時はどうしても下剤に頼っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	3日に一度のペースで入浴している。それでも何らかの理由で入浴が必要な場合はその間隔を崩して入浴してもらっている。入浴剤の他、時期には柚子や菖蒲を入れ、季節を感じてもらおうようにしている。	脱衣所は、電気ストーブで温め、熱めの風呂など入居者に合わせた配慮をしている。拒む方は、無理強いはいしないで、翌日に入浴するようにしている。浴槽に滑り止めマットや踏み台を置き安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に就床時間は職員から促すのではなく、入居者本人に任せている。天気の良い日は布団を干したり、シーツやタオルケットを洗濯して気持ちよく休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員が見やすい場所に保管し、把握に努めている。内服薬に変更があった場合は一定期間様子観察を行い、薬の効き具合を確かめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には家事仕事を多くやってもらっている。やや機能が落ちていの方にもテーブルでできるような洗濯物たたみなど行ってもらおうようにしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ1年以上はコロナの為、外出を自粛したので、敷地内の散歩と、下車しないドライブが主であった。以前と比べると出掛ける機会は激減している。	暖かい日は、広い敷地内の周辺を散歩している。外出制限でウイルス予防対策をし、新しくできた三陸道の気仙沼大橋や大島大橋を車窓から見ながらドライブを楽しんでいる。家族と車窓から墓参りをしていく方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は3分の1であるが、自分で買い物に行く事はなかった。何か欲しい物があれば職員が買い物の代行をした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く事は無かったが、電話での会話はほぼ全員ができた。コロナの為、以前より格段に増えた。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の物を飾ったり、花を置いたりした。居室前には分かるように本人、家族の了承を得て名札を貼っている。トイレ然り。居室も本人の使いやすいようにベッドや家具を配置している。	ホールは、日当たりが良く自然な光が差し込んでいる。手摺りやドアノブ、床などの消毒を行っている。敬老会の写真や、クリスマスツリーを飾っている。テレビや新聞を見たりレクリエーションをしたり楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方たちが静かな雰囲気会話できるように廊下にソファを設置している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた物、大切な物を持ってきてもらうようにしている。部屋が雑然としている場合は本人の意思を確認して掃除や片づけをするようにしている。	ベッドや衣装ケース、テレビが備え付けてある。好きなこけしや携帯電話を持ち込んでいる。家族の写真を飾り、温・湿度も適切である。ハーモニカを吹く、CDで昔の演歌を歌う、テレビを見るなど思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の立ち入りを制限している場所はない。危険な物は手の届かない場所に置くという事を意識している。		